一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Prospective evaluation of a follow-up schedule in cutaneous melanoma patients: Recommendation for an effective follow-up strategy.	
	論文の日本語タイトル	皮膚悪性黒色腫の経過観察計画に関する前向き研究:推奨される効果的な経過観察戦略	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上での目次名称	MMC Q 2 3 - 7	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (IV)	
	Pubmed ID	12560444	
	医中誌 ID		
	雑誌名	J Clin Oncol	
	雑誌 ID		
	巻	21	
	号	3	
	ページ	520-9	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	2003、Feb	
	著者情報		氏名
筆頭著者		Garbe, C.	Department of Dermatology, Skin Cancer Program, Eberhard-Karls-University of Tuebingen
その他著者 1		Paul, A.	
その他著者 2		Kohler-Spath, H.	
その他著者 3		Ellwanger, U.	

	その他著者 4	Stroebel, W.	
	その他著者 5	Schwarz, M.	
	その他著者 6	Schlagenhauff, B.	
	その他著者 7	Meier, F.	
	その他著者 8	Schitteck, B.	
	その他著者 9	Blaheta, H. J.	
	その他著者 10	Blum, A.	
	その他著者 11	Rassner, G.	

一次研究の 8 項目	目的	悪性黒色腫患者における経過観察法を検証する		
	研究デザイン	前向きコホート研究		
	セッティング	Tuebingen 大学皮膚科		
	対象者	1996 年から 1998 年までの悪性黒色腫患者 2008 人(stageI-IV)		
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (2)		
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)		
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)		
	介入 (要因曝露)	術後 5 年間 3 カ月毎、その後 5 年は 6 カ月毎の受診と問診、診察、stage I,II では 12 カ月毎 stage III では 6 カ月毎の腹部超音波、胸部 X 線、血液検査 stage I では 12 カ月毎 stageII, III では局所超音波		
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分	
		1	転移の発見	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
		2		1.主要 2.副次 3.その他 ()
		3		1.主要 2.副次 3.その他 ()
		4		1.主要 2.副次 3.その他 ()
		5		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	6		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
	7		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
	8		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
	9		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
	10		1.主要 2.副次 3.その他 ()	

	主な結果	計 3800 回の診察、12398 回の画像検査で 62 病巣(46 人)の 2 次悪性黒色腫、233 病巣(112 人)の再発がみられた。ステージ I から III では診察により 50%の転移が発見された。21%の転移はリンパ節の超音波検査で発見された。48%の転移は早期であり発見により生存期間が延長したと考えられた。
	結論	入念に作られた経過観察計画は 2 次黒色腫や転移の早期発見に役立つ。限局性の黒色腫では回数を減らし、所属リンパ節転移のある例では増やす必要がある。
	備考	
レビュワーコメント	レビュワー氏名	八田尚人
	レビュワーコメント	エビデンスのレベル分類 (IV) 経過観察に関する唯一の prospective study として貴重。ステージ IV を含めている点が現実的でない。